

## 財政

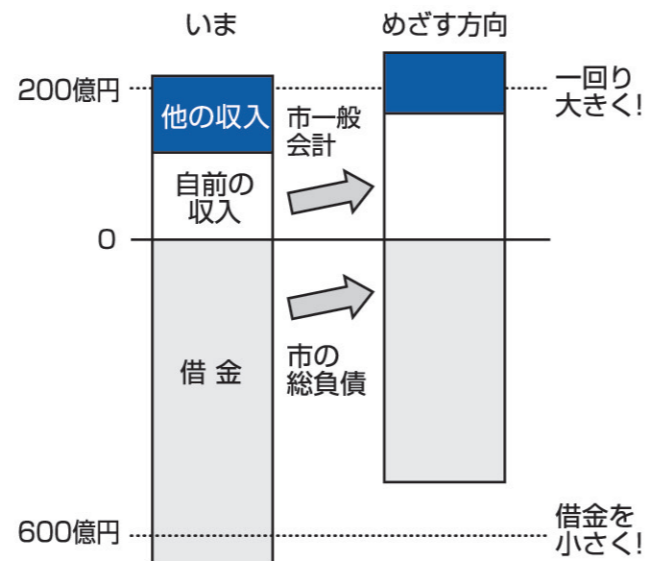
交野が抱えた借金は身の丈をはるかに超えており、財政健全化の実現をめざし取り組んでいます。みんなの“かたの”の夢に向かい、長期的な視点に立って財政のかじ取りを行い、健全な経営環境を整えていきます。

市民の健康や福祉といった基本的な生活を支え安心して暮らすための施策や、地震などの災害対策といった安全を守るための施策には、効率的、効果的に、資源を投入することは必要です。

それと同時に、あらゆる活動において、お金をかけなくても目的に向かっていくことができるよう、みんなで知恵や汗を出し合って創意工夫を図っていくこととします。

収入が増えていくような取り組みも進めます。あじわい、なりわいづくりを通したみんなの様々な活動が賑わいを生み、一回り大きな“かたの”を創造していくようにします。

### <財政の基本方向>



## 施策化の視点

みんなの“かたの”の夢は、一つひとつの内容が実に多様な施策の可能性を感じさせるもので、かつ、夢が相互に複雑なつながりをもっています。こうした夢に向かう施策を考えるとき、従来のような分野ごとのとりまとめでは、十分な対応が困難なことから、分野を超えて、自在に連携し、多様な目的に柔軟に対応することのできるよう本質的な施策の考え方を持つ必要があります。

その切り口として、“かたの”が施策の対象とすべきものを、人が暮らしを営む視点から大きく3つ、【ひと】(心の視点)、【社会】(しくみの視点)、【環境】(暮らしの舞台の視点)にとりまとめます。この3つの対象それぞれのあり方をどう考えて施策化するか、そして、それらとまちとの関係性はどうか、こうした視点を踏まえて本質的な課題として施策化する際の方向性を取りまとめます。

基本として、基本理念や行動指針を受けて施策化するものですから、3つの対象それ自体のことについては、自らのことをよく知り、認め、そのほどよいことを大切にすることといった視点で施策化することになります。また、3つの対象とまちとの関係性については、義務や押し付けではない、日常的な自然でさりげないつながりを大切にすることといった視点で施策化します。

これらの視点を相互に関連させて施策化し、“かたの”としての自治を、多様な担い手による共治(みんなの)によって展開していくこととします。

### <施策化の視点>

心の問題も、社会の問題も、環境の問題も、それぞれが複雑につながっています。まずは、自らを知り、ほどよく大切にするとともに、いろんな関係性をさりげなくつないで、施策化していきます。

